

生而白髮、長而愛民、

〔日本書紀二十〕元推古年四月己卯、立厩戸豐聰耳皇子爲皇太子、仍錄攝政、以萬機悉委焉、橘豐日天皇  
明○用 第二子也、略○中 父天皇愛之、令居宮南上殿、故稱其名、謂上宮厩戸豐聰耳太子、

〔袋草紙四〕紫式部ト云名有二說、一此物語源ニ紫卷ヲ作、甚深之故得此名、一一條院御母之子也、  
而上東門院藤原彰子ニ令奉トテ、吾ユカリノ物ナリ、アハレト思食セト令申給之、故ニ有此名武

藏野ノ義也、

〔十訓抄二〕上東門院の御方に、琴引人の今まいりゑたりけり、院紫式部に、此女房に琴ひく由はな  
れぬ名つけよと、仰ごと有けるに、いはこそすどつけたりければ、殊にはめさせ給けり、ことぢのさ  
きに緒のあたる所は、いはこそすど申によりて、思よられけり、彼名をばえれる人、いと稀也、

〔豫章記〕親經河野氏ニハ、女子一人計ニテ、相續者ナキ故、賴義ノ末子ヲ擧取、家ヲ令續、賴義ノ子四人  
有、略○中 四男三島四郎親清ト號、家ヲ繼、略○中 又親清ニモ長子無リケレバ、女中親經之女、氏神三嶋

宮へ參籠有テ、家ノ事ヲ祈請セラル、其比迄、ハ家督タル人社參ニハ、丑時諸社燈明、悉消シテ參リ  
玉へバ、明神三階迄御出有テ、御對談有シ事也、如其女中參勤有テ、心中ノ趣、具ニ申給へバ、明神モ  
下ラセ玉フ、就中長子無テハ、誰ニ家ヲバ可、令續仰有ケレバ、明神御聲ニテ、親清ハ異姓他人也、努  
努不可爲種、姓有ケル、女中然ラバ我身ヲバ、何トテ男子トハ成玉ハヌヤ、サリトテハ子孫御絶可  
有哉ト申給へバ、明神モ道理ニ攻ラレテ、然バ今一七日伺候有レトテ、神ハ上ラセ給ケリ、御託宣  
ニ任セテ、又七箇日、御社籠有ケル、第六日ニ當、夜半ノ程ニ、長十六丈餘ノ大蛇之身現、御枕本ニ寄  
給フ、本ヨリ大剛ナル女中ナレバ、少モ不騒、其時ヨリ御懷妊有テ、男子一人出來給フ、其形常ノ人  
ニ勝テ、容顔微妙、御長八尺、御面兩脇、鱗如ナル物有、小跣テ脊溝無也、面前異相成ヲ耻テ、人ニ向事  
ヲ慎、常ニ手ヲ插頭給へバ、河野ノ物耻ト申傳タリ、烏帽子手形有事此謂也、河野新大夫ト云、後伊